

第 1 学年道徳学習指導略案

令和 3 年 1 月 16 日（土） 4 校時

授業者 1 組 高橋 美紗

2 組 林谷 健太郎

3 組 齋藤 マリ

4 組 明吉 貴子

5 組 白須 隆

1 主題名 「たった一つの命」 D 生命の尊さ

2 資料名 「いのちが あって よかった」(『あたらしいどうとく』東京書籍)

3 ねらい かけがえのない生命を大切にしようとする態度を育てる。

4 授業の流れ

	学習活動 【◎中心発問 ○主な発問 ・児童の反応】	□留意点 ■評価【評価方法】
導入	(1) 自分や身の回りの出来事で、危ないと感じたことについて話し合う。 ○「危ない」と感じた出来事がありますか。 ・交通事故にあいそうになった。 ・廊下を走っている人とぶつかりそうだった。 ・川に落ちそうになった。	□「危険なこと」を想像することで、「命」に関することを想像しやすくする。
展開	(2) 資料の本文を読み、命の大切さについて考える。 ○右手にギブスをしていると分かったとき、「わたし」はどんなことを思ったでしょう。 ・車にはねられたんだ。 ・手が動かせないのは不便だ。 ・早く治るといいな。 ○お父さんの言葉を聞いて「わたし」はどんなことを心の中で考えたのでしょう。 ・危うく死ぬところだった。 ・みんなに心配かけたんだ。 ・お父さんは心から心配してくれたんだ。 ◎心配してくれたみんなに「わたし」はどんな気持ちをもったでしょう。 ・みんなごめんね。 ・心配をかけてごめんね。 ・命を大切にします。 (3) 「生きる」とはどういうことなのか考える。 ○いのちを大切にすることとはどういうことでしょうか。 ・交通事故にあわないようにする。 ・生き物を大切にする。	□ギブスを見て、自分のしたことの重大さに気付いた「わたし」の思いとともに、命が助かったことについて「わたし」が考えたことがつかめるようにする。 □父親の「死ぬんじゃないか」という言葉の重みと、家族が心の底から心配していたことを感じられるようにする。 □心配してくれた人への感謝の気持ちを考えることで、「自分の命は大切にしないといけない」という気持ちが深まるようにする。 ■かけがえのない生命を大切にしようとする考えをもっているか。【発言・ワークシート】
終末	(4) 「手のひらをたいように」の詩を音読する。	□「手のひらをたいように」の詩からどんな生き物にも命があることを感じ、かけがえのない命を大切にしようとする気持ちを深められるようにする。